



発行：栃木市教育委員会
住所：栃木市万町9-25
電話：0282-21-2467
FAX：0282-21-2689
Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp



中学生が英語づくし合宿！

なす高原自然の家で、8月20日（月）から22日（水）までの3日間、イングリッシュ・セミナーを開催し、30名の中学生が参加しました。

このセミナー中、子どもたちはできるだけ日本語を使わず、英語で過ごします。英語を使って、お菓子づくり、ショッピング、劇、歌、旅のレポートなどに挑戦しました。子どもたちは、食事や休憩の時間も外国語指導助手（ALT）とずっと一緒にのまさに英語づくしの3日間を楽しみました。

栃木市では、英語によるコミュニケーション能力を育成することを目的として、毎年このような体験活動を行っています。

栃木市教育のスローガン

「ふるさとの風土で育む 人づくり・まちづくり」

～とちぎ未来アシストネットの推進～

「とちぎ未来アシストネット」とは、学校・家庭・地域の連携により、地域ぐるみで子どもたちの「生きる力」を育むとともに「地域の活性化」を図る本市独自の教育システムです。



栃木市教育ニュース



栃木市教育委員会では、生涯学習を基盤とした社会の構築を目指して、本市ならではの教育を推進しています。今号の『栃木市教育ニュース』では、学校教育関連の話題を市民の皆様にお知らせします。

小学生はイングリッシュ・キャンプ



小学生対象のイングリッシュ・キャンプは、太平少年自然の家を会場にして、7月21日（土）に市内の5・6年生39名が参加しました。

スタンプラリーや外国のスポーツ体験など様々な活動の中、子どもたちは身ぶり手ぶりを交えながら、英語でALTとのコミュニケーションを楽しみました。

イングリッシュ・キャンプもセミナーも栃木市は他の市に先駆けて取り組んできた。参加した子どもたちは、それぞれが外国語指導助手（ALT）とのふれあいを思いっきり楽しんでいるようだ。決して無理をせず、心がうれしいと思えればそれでいい。

いつの日か大きくなったとき、このキャンプの記憶が蘇り、外国人に対して臆することなく自然と笑顔が溢れることを心から願っている。（福島 鉄典 教育委員）



“あったか栃木” いじめ防止子どもフォーラムを開催しました

第3回目となる今回は、8月25日（土）に大平文化会館等で開催し、岩舟小学校と栃木東中学校の実践発表の後、高校生を含む児童生徒、保護者、教員がそれぞれの立場で、いじめ問題について協議しました。

市では、平成28年4月に「栃木市いじめ防止推進条例」を施行し、平成29年1月に市内小中学校の児童生徒代表による第1回“あったか栃木”いじめ防止子どもフォーラムを開催して、「“あったか栃木” いじめ防止子ども宣言文」を作成しました。

児童・生徒の実践発表に続き、場所を移して児童・生徒、保護者、教員の3つのグループに分かれそれぞれの立場からみての現状、対策、取組などに関して熱く意見交換がされました。

児童・生徒のグループでは高校生ボランティアの巧みな進行に加え、実際の体験談なども聞くこともでき、身近な問題だけにとても熱心に聞き入っている姿も見られました。少しでもいじめがなくなる様願う皆さんの姿に心打たれました。（西脇 はるみ 教育委員）





教育委員の活動日誌



教育委員は、栃木市の「教育の充実」のため、毎月の定例教育委員会をはじめ、様々な活動に積極的に取り組んでいます。『教育委員の活動日誌』では、その一部を紹介します！

定例教育委員会



毎月1回、**定例会**を開催しています。栃木市教育委員会の方針や施策を話し合い、合議によって決定します。委員同士の活発な意見が交わされています。

会議は原則公開され、傍聴することができます。会議録を市のホームページ上で公開しています。ぜひご覧ください。

協議事項は事前に配布され、私たち委員も内容をしっかり把握・検討して委員会に臨みます。学校教育に関することはもちろん、各種委員会の人事や文化財の保存、文化会館やスポーツ施設などの公共施設の維持管理など生涯学習に関することまで広範囲にわたって審議しています。市民の皆様も一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

(荒川 律 教育委員)

総合教育会議



「**総合教育会議**」とは、市長と教育委員が話し合っ、教育施策の方向性を共有するために開かれる会議のことです。

会議の中では、全国的に話題になっている先生の働き方改革等、様々な案件について話し合っています。

市民の代表だからと気負いはない。しかし、教育委員という立場で意見を述べることは、市の教育をより良くすることに繋がると自負している。給食費無料の財源の件は、教育関係費以外からお願いしたいと要望すれば、市長からは「教育予算は削りません」と答えが返ってきた。よし、と心にグーを作って一安心する。引き続き、この件には注目していきたい。

(林 慶仁 教育委員)

学校訪問

教育委員は、各学校の特色ある教育活動や教育環境の状況について把握するため、毎年複数の学校への「**学校訪問**」を行っています。

私たちは、市内の小中学校を訪問し、子どもたちの様子や校舎の状態を直接見て、先生方から学校経営や学校教育の状況を聞いて現状を把握し、子どもたちにとってより良い学習環境を整えていける様努めています。

先日は西方小学校に伺いましたが、学校給食を子どもたちと一緒に食べていると、好きなスポーツや、遊びや、テレビの番組など、いろいろなことを話してくれて元気をもらえるので、毎回楽しみにしています。

(若林 由美子 教育委員)



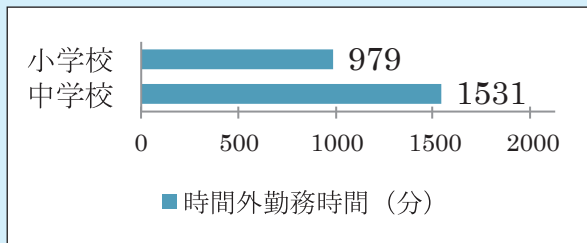


栃木市版 先生の働き方改革の推進



毎日授業を行っている先生の勤務状況

1週間あたりの時間外勤務時間の平均



週 20 時間を超える時間外勤務者の割合

小学校	27.8% (111人 / 398人)
中学校	66.1% (164人 / 248人)

学校の先生は働き過ぎ?!

全国的に「働き方改革」が謳われている中、市教育委員会では学校現場での先生の勤務状況等を把握するため、平成30年2月～3月に本市先生883人を対象に意識・実態調査を行いました。

その結果、多くの先生が多忙な毎日を過ごしていることが分かりました。左のグラフ・表は、先生の中でも子どもたちと一緒にいる時間が1番多い学級担任等の先生の1週間の勤務状況です。

国が基準としている過労死認定ライン【時間外勤務が月80時間：週換算20時間（1200分）】を超えている先生が小学校で3割近く、中学校で7割近くいるという状況は、先生の健康を危惧するとともに教育の充実の妨げにも繋がりがねません。

市教育委員会では、今後この問題の改善のための様々な方策を検討・実施していきます。保護者や地域の方のご理解・ご協力もよろしくお願い致します。

若い頃、先輩から諭されたことがあります。「多忙」とは、多くのことを抱えすぎて、大切な心を亡くすという意味であることを。以来、その言葉に代えて「多用」という言葉を使っています。本市には、心を見失って子どもに関わる先生ではなく「多望」な先生が大勢います。しかし、先生方個々の努力と誠意に任せるだけでいいのでしょうか。この機に「子どものために」という視点から、学校業務全体を見直し、勇気をもってマイナスの原理を導入し、スリムアップすることが教育の更なる充実のために必要ではないかと考えます。

(後藤正人 教育長職務代理者)

教育長通信 ～学習環境のUD(ユニバーサルデザイン)化に向けて～



一般にユニバーサルデザインというと、車いすでも楽に移動できるよう段差をなくすことや、目の不自由な方のための点字ブロックや音声ガイダンス、また、複数の用途に対応できる多目的トイレなどが思い浮かぶことと思います。これらは、障がいのある方々にとっては「ないと困る」ものであると同時に、健常者にとっても「あると便利な」ものです。

学校という学びの場においても同様のことが言えます。通常の学級の中にも、文字を読んだり書いたりすることに困難を感じる子、先生からの指示を理解しにくい子、集中が続かない子、コミュニケーションが苦手な子など、様々な特性や課題を抱えた子どもたちが少なからず在籍しています。そういった子どもたちには、例えば、視覚に訴える教材を準備することや、ゆっくり・短く・一つずつ指示をすること、静と動のメリハリのある学習活動を工夫することなどが有効です。これらは同時に、困り感のある子どもたちだけでなく全ての子どもたちにとって「あると便利な」支援です。現在、本市の小中学校では、全ての子どもたちに「安心感と分かりやすさ」を担保すべく、授業や学級づくりにおいて「学習環境のUD化」に向けた創意ある取組を行っているところです。教育委員会といたしましても、この取組の推進が一人一人の子どもたちの学びを保障し、延いては学力の向上にもつながるととらえ、本年度の大きなテーマとして各学校の取組をバックアップしてまいります。

教育長 青木 千津子

【編集後記】

“教育委員会だより 絆”は市民の皆様へ、教育への関心を一層高めてもらうため、「開かれた教育委員会」としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想は
こちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 ☎328-8686 栃木市万町9-25
電話：0282-21-2467 FAX：0282-21-2689 Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp